

## インドネシア

### 稲種子生産配布事業



本事業により調達された種子乾燥機

#### [ 借 款 概 要 ]

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| 承諾額/実行額     | 3,000百万円 / 758百万円   |
| 借 款 契 約 調 印 | 1985年2月             |
| 借 款 契 約 条 件 | 金利3.5%、返済30年（据置10年） |
| 貸付完了        | 1992年3月             |

#### [ 事 業 概 要 ]

スマトラ島等において稲種子処理センターを建設することにより高収量種子の安定的供給を図り、米の増産に寄与するもの。

#### [ 評 価 結 果 ]

本事業の計画当時、米自給の確立はインドネシアの優先課題であり、高収量種子の供給が必須とされていたが、1984年以降の米の自給率の安定、及び財政事情等により、稲種子処理センター（SPC）の建設は計画の11カ所から5カ所に縮小され、場所についても地域ごとの米の需給状況を踏まえて見直され、スマトラ島（3カ所）、スラウェシ島（1カ所）及びジャワ島（1カ所）となった。

各SPCの種子生産量は、事業完成後の1993年から2000年にかけて計画比平均85%程度を達成しており、地域農民へのインタビュー調査によれば、90%以上の農民が本事業のSPCから稲種子を購入し、高収量種子の効果として単収の増加、発育期間の短縮等が挙げられている。

なお、各SPCは稲種子の市場価格抑制のため政府補助金を受けているが、今後、種子市場の自由化が見込まれているため、種子生産とマーケティングのあり方、設備・維持管理体制の改善等を含め、SPCの役割・経営に係る総合的な検討が必要となっている。